

問題【国語】

次の言葉を使って、短い文を作りましょう。

- (1)決して
- (2)たぶん
- (3)ぜひ
- (4)よもや



豆知識 雑学コラム

「呼応の副詞」とは

今回のテーマは副詞です。副詞とは、主に用言（動詞・形容詞・形容動詞）を修飾する言葉です。特に「決して（～ない）」や「たぶん（～だろう）」のようにあとに決まった言い方がくる副詞のことを「呼応の副詞」と言います。

では、「呼応の副詞」を使うことでどんな効果があるのでしょうか。例文を使って考えてみましょう。「マネをしないでください」というときと、「決してマネをしないでください」というときで比べると、「決して」を使っている方が「マネをしてはいけない」ということを強く伝えていることがわかります。このように「呼応の副詞」には、主張を強くする「強調」の効果があります。

「呼応の副詞」をマスターすることは作文だけでなく、読解にも役に立ちます。読解問題の基本は「筆者の言いたいことを文章から読み取ること」です。どうすれば、言いたいことを伝えられるのでしょうか。話すときには、声量を大きくしたり、声を高くしたりすることで言いたいことを強調しますが、書く時にはそうした工夫ができません。だから、強調を表す言葉を使って、言いたいことを目立たせて読者に伝えます。つまり「呼応の副詞」のような強調の言葉が出てくる箇所は、作者の主張したいことで、読解問題の重要なポイントになることが多い箇所なのです。

今回は「呼応の副詞」を扱いましたが、それ以外にも文を強調する言葉や方法はいろいろあります。そうした言葉や方法を身につけて、作文や読解に生かしましょう。

【解答例】

- (1)決してマネをしないでください。(打ち消しの言葉が後ろに来る)
- (2)右端にいるのがたぶん、太郎くんだろう。(推量言葉が後ろに来る)
- (3)ぜひ、その本を貸してください。(願望が後ろに来る)
- (4)よもや死ぬことはあるまい。(打ち消し推量言葉が後ろに来る)